セッション

綾辻行人対談集

綾辻行人

YUKITO AYATSUJI

集英社

セッション

綾辻行人対談集

綾辻行人
YUKITO AYATSUJI

集英社

セッション—綾辻行人対談集
1996年11月30日　第1刷発行

著　者　綾辻 行人

発行者　小島 民雄

発行所　株式会社集英社
東京都千代田区一ツ橋2-5-10　〒101-50
電話 03-3230-6100（編集部）3230-6393（販売部）3230-6080（制作部）

印刷所　凸版印刷株式会社

製本所　ナショナル製本協同組合

著者との諒解により検印は廃止いたします。
定価はカバーおよび帯に表示してあります。

© 1996 YUKITO AYATSUJI, Printed in Japan ISBN4-08-774231-8 C0095

乱丁・落丁本が万一ございましたら小社制作部宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

1600円

セッション

目　次

まえがき ―― 6

SESSION1 with **宮部みゆき** ―― 9
宮部みゆきさんのこと ―― 34

SESSION2 with **楳図かずお** ―― 37
楳図かずおさんのこと ―― 59

SESSION3 with **養老孟司** ―― 61
養老孟司さんのこと ―― 75

SESSION4 with **大槻ケンヂ** ―― 77
大槻ケンヂさんのこと ―― 98

SESSION5 with **京極夏彦** ―― 101
京極夏彦さんのこと ―― 132

SESSION6 with **北村薫** and **宮部みゆき** ―― 135
北村薫さんのこと ―― 152

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

SESSION7 with **山口雅也** ―― 155
山口雅也さんのこと ―― 177

SESSION8 with **瀬名秀明** and **篠田節子** ―― 179
瀬名秀明さんと篠田節子さんのこと ―― 197

SESSION9 with **法月綸太郎** ―― 199
法月綸太郎さんのこと ―― 219

SESSION10 with **竹本健治** ―― 221
竹本健治さんのこと ―― 246

あとがき ―― 248

巻末特別付録「それゆけあやつじくん」(西原理恵子)

装丁 京極夏彦 with FISCO

セッション

まえがき

プロの物書きになってまる九年。この秋には十年目に突入したのだけれども、僕にとって「小説を書く」というのは相変わらず大変に苦しい作業である。長編短編ジャンルの如何を問わず、本当に苦しい（もちろんそれ以前に「楽しい」と感じている部分も多々あるわけだが）。長く続ければ続けるほど「本格ミステリ」（もしくは単に「ミステリ」）の、あるいは「ホラー」の、さらには「小説」そのものの、さまざまな局面における諸問題が見えてきて、僕のような能天気者でさえそれらと深刻に向かい合わざるをえなくなり、結果ますます苦しみの増幅は進む。まったくもって身体に悪い職業……いや、職業のせいではなくて、これは単に適性の問題なのかもしれない。

そんな中で、たまに雑誌などから対談や鼎談、座談の企画が持ちかけられる。基本的には終日独り部屋に閉じこもってワープロを打つのが本分、誰にも会わない喋らないといった日も決して少なくないような生活なので、そういった「人とお話しをする」類の仕事が来ると正直云ってありがたい。これもまた「基本的には」だが、その時々のたいそう良い気分転換となった

り刺激となってくれたりするものだから、その種の依頼はたいてい、あまりためらうことなくお引き受けすることになる。

といったわけで、これまであちこちで行なってきた対談、鼎談、座談はけっこうな数に上る。その中から今回、十本を選んで一冊の本にまとめる運びとなった。内容的にはどれも、ミステリおよびホラー、あるいはそれらに多少なりとも関連のある話題が中心となっている。そのような方針で十本を選んだわけでもある。

原則として、発表時期の順に並べることにした。実際に対談が行なわれた日付で云うと、いちばん古いものが一九九二年四月二十一日、いちばん新しいものが一九九六年六月十七日である。通読していただければ、この間におけるミステリやホラーを取り巻く状況の変化だとか、それらに対する僕自身の考え方の微妙な推移だとか、案外といろいろな問題が見取れて面白いかもしれない。

お相手を願ったのは全部で十一人。宮部みゆき、楳図かずお、養老孟司、大槻ケンヂ、京極夏彦、北村薫、山口雅也、瀬名秀明、篠田節子、法月綸太郎、竹本健治――と、こうして並べてみると実に錚々たる顔ぶれである。本書への収録を快諾してくださったこの十一人の皆さんに対して、とにかくまずここでお礼を申し上げておきたいと思います。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.

SESSION1

With 宮部みゆき

1992・4・21

宮部みゆき（みやべ　みゆき）

1960年東京生まれ。東京都立墨田川高校卒。速記業、法律事務所勤務のかたわら小説を書き始め、1987年『我らが隣人の犯罪』で第26回オール讀物推理小説新人賞を受賞。同年、『かまいたち』で第12回歴史文学賞佳作入選。1989年『魔術はささやく』で第2回日本推理サスペンス大賞、1992年『本所深川ふしぎ草紙』で第13回吉川英治文学新人賞、『龍は眠る』で第45回日本推理作家協会賞を受賞。1993年には『火車』で第6回山本周五郎賞を受賞。他に『鳩笛草』『ステップファザー・ステップ』『蒲生邸事件』などの著書がある。

作家デビュー

宮部　昨日（編集部註・日本推理作家協会賞の受賞式があった）はお疲れになったでしょう。

綾辻　ああいうのは初めてでしたからね、ワタクシは（笑）。

宮部　最初に挨拶だとやっぱりたいへんだったでしょう。

綾辻　思いきり緊張しました。話題にするとしたらまあ、宮部さんと自分が同じ誕生日だということだろうなと。「余談ですが……」って感じで話そうと思っていたら、最初に北方謙三さんには言われちゃうし、生島治郎さんにも言われちゃうし（笑）。

宮部　二回も言われちゃった（笑）。

綾辻　もっとちゃんと考えとくんだった。

宮部　珍しいですもの、やっぱり。私も生年月日のことは言おう、なんて思っていたら、最初の打ち合わせの段階で、珍しいからそのことは言いますと司会の北方さんがおっしゃっていたので……。

綾辻　一九六〇年十二月二十三日。

宮部　奥様（作家・小野不由美）は一日違いなんですよね。

綾辻　そう、彼女は二十四日。

宮部　そこは物書きの星が寄ったのではないかというふうに思ったりして。昭和三十五年（一九六〇年）生まれの作家の人、最近、多いんですよね。

綾辻　他に誰が？

宮部　私が知ってる限りでは、乃南アサさん、一昨年の江戸川乱歩賞の阿部陽一さん。もう二、三人いるんじゃなかったかな。三十五年を中心にその前後一、二年という人がけっこう多いんですよね。

綾辻　例の四十一歳寿命説に当てはまる世代なんだよね。

宮部　私たち、あまり長生きはできない世代らしい（笑）。でも、同じような年齢の仲間の人が多いというのは、私なんかはすごく心強かったですけどね。

綾辻　この数年で若手がどんどん出てきたという感じで。

宮部　出ましたね。『十角館の殺人』を出されたのは八七年の九月ですか。

綾辻　うん。宮部さんは？

宮部　私は八七年の九月に『オール讀物』でデビューしたんですよ。

綾辻　じゃ、まったく一緒なわけ？

宮部　まったく同じなんですね。でも、私は短編で。雑誌に載せていただいてから最初の単行

本が出るまでに一年半かかっているんです。

私は、オール讀物推理小説新人賞のカラーが好きで応募して、賞を、三度目だったんですけどいただけたんで、すごく幸せなデビューだったんです。それでもやっぱり、単行本でデビューした方がいいのかなあ、やっぱり本が出るというのはいいなあ、うらやましいなあって見てました。

綾辻　逆に僕なんかは後ろめたい気持ちがあって……。だって、賞も何もなしにいきなり本を出す前例ってあんまりなかったでしょう、当時。

宮部　じゃ、やっぱり先鞭をつけたのは綾辻さんだったんだ。

綾辻　もちろん島田荘司さんの後押しというのがあったからこそだけど。自分なんかが本を出していいのかなという気持ちがけっこう強かったんです。だから、作家になったんだなと実感できるまでに一年以上はかかりました。ま、学生でもあったし。その頃はまだ大学院にいましたから。

宮部　『迷路館の殺人』の時まで大学院にいらしたんですね。

綾辻　いや、大学院に在籍していたのは、ついこのあいだまで（笑）。僕は何と、十三年間も京大にいたんですよ。

宮部　まあ……、それは存じませんでした（笑）。

綾辻　休学してたんですけどね、この三年ぐらいは。

宮部　それは何か意図的に？

綾辻　ちょっと身体を悪くしたというのもあったんだけど、まずはみんなが卒論を書いている時期に『十角館』の初稿を書いてて留年して（笑）。

宮部　なるほど、なるほど。

綾辻　それが二十二歳の時なんですけど、その後、五年間で修士と博士をやった。あとは博士課程の三年間と同じ分、休学して。籍は置いたままで休学というのができるんですね。

宮部　それは事実上、研究をしに大学を離れて自由に動いていいよというような含みがあるんでしょうね。

綾辻　僕の場合は、オーバードクターになってなおかつ休学したんですよね。授業料を払うのたいへんだったから（笑）。

宮部　ああ、なるほど。

綾辻　それでめでたくこの三月に……京大生活を終えて専業作家になったわけです。

宮部　じゃ、今までは二足のわらじだった（笑）。昨日しみじみと経歴を読ませていただいたんですが、逸脱行動論というのは、何か犯罪学みたいなものなんですか。

綾辻　そうそう。犯罪社会学というふうに言ったら一番分かりやすいと思うんですけど。犯罪という現象を社会学的に考察しようという学問です。そもそもそれを選んだきっかけも、小説を書く時間が欲しくて。性格から考えて就職してしまうとなかなか書けないだろうから、とり

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.